

いい競争で、いいサービスを。

いい競争とは何でしょう。それは「公平・公正な条件（イコールフッティング）」のもとで生まれる競争だと、クロネコヤマトは考えます。対等な条件でアイデアを競い、切磋琢磨できるからこそ、お客さまの利便性を高める商品やサービスが生まれる、そのことが、かならず経済全体の活性化につながると、私たちは信じています。

私たちは「荷物を運ぶ仕事」をしています。しかし、いまのままでは、対等な競争ができません。一日も早く、すべての宅配便事業者が対等に競い合えるようになることを希望します。

日本郵便株式会社には、「郵便業務」を「ユニバーサルサービス」として維持することが義務付けられています。「ユニバーサルサービス」とは地域の分け隔てなく、だれもが利用しやすいように維持されるべき公共的なサービスのことです。法律ではこうしたサービスの維持を義務付ける代わりに、優遇措置が用意されています。日本郵便株式会社の「ゆうパック」は、かつて郵便物に含まれていましたが、2007年の郵政民営化以後はユニバーサルサービスからは除外されました。いまでは「ゆうメール」とともに「宅配便貨物」に分類されています。

つまり日本郵便株式会社は、ユニバーサルサービスである「郵便業務」とユニバーサルサービスではない「荷物を運ぶ仕事」の両方をしています。ここで疑問があります。ユニバーサルサービスを維持するための事業所税や固定資産税の軽減などの優遇をする際に、ユニバーサルサービスではない「荷物を運ぶ仕事」の部分はきちんと除外されているのでしょうか。

税の軽減とは、言葉を変えれば税金の投入です。つまり、国民の負担でユニバーサルサービスが維持されているのです。こうした優遇をする以上は、優遇額がどのように計算されているのか、税金を納めている国民にも分かりやすい、いい説明をしてほしいと思います。

さらに、ユニバーサルサービスとされる「郵便業務」のいくつかのサービスは、実際には、荷物を送るために使われています。日本郵便株式会社の「レターパック」や「スマートレター」はオンライン商品などのやりとり利用することを推奨しています。また、EMS（国際スピード郵便）は対象を手紙や書類などから冷蔵品にまで拡大しています。これらのサービスは、国内外の宅配便事業者が提供しているものとは競争関係にあるものです。

実態は、荷物も運ぶ仕事なのに、「郵便業務」としてサービスを拡大し、しかも、車両の交通規制の免除、通関手続きの簡素化などの優遇を受けています。いまの制度のままでは、ユニバーサルサービスを維持するための優遇を受けながら、さまざまな荷物を運ぶ仕事を拡大できることとなります。これでは「公平・公正な競争条件」にも規制緩和の流れにも大きく逆行すると思います。こうした不公平な制度が、日も早く見直されすべての事業者が、対等に競争できる世の中になることを希望します。

わずかな「文面の違い」によって、荷物として運べたり、運べなかったりする。この分かりにくい制度を変えられないものでしょうか。

あまり知られていませんが、「信書手紙など」を広く全国に運べるのは、事実上、日本郵便株式会社の「郵便業務」だけです。「郵便業務」に当たらない宅急便、ゆうパック、ゆうメール、メール便などの荷物を運ぶサービスを使って送ると、送ったお客さまも罪に問われ罰せられる決まりとなっています。

さらに複雑なのは、文書のわずかな「文面の違い」によって、荷物として運べたり、運べなかったりすることです。その基準はあいまいで、「一般の人はもちろん、総務省の窓口で問い合わせても、その文書が「信書（手紙など）」かどうか即答できないケースがあるほどです。荷物を送る側、運ぶ側のどちらにとっても、分かりにくく、不便な制度になっています。

今年の3月31日、私たちがクロネコメール便を廃止した理由もここにありました。

クロネコヤマトは、送付が規制される「信書（手紙など）」の範囲を、文書の文面ではなく、文書を入れる封筒の大きさで決めることを提案してきました。これなら、荷物を送るお客さまも迷うことがありません。荷物を運ぶ事業者もよりよいサービスを開発しやすくなると思います。「どんな文書が入っても荷物は荷物」として自由にやりとりできる世の中のように、荷物を運ぶサービスの公平・公正な競争を促し、お客さまの利便性を高めるのではないのでしょうか。

クロネコヤマトは、「公平・公正な競争」がお客さまにとってさらに便利なサービスを生み出し、経済全体のプラスになると信じています。

「荷物を運ぶ仕事」のまわりには、たくさん課題もありますが、お客さまがもっと便利になるチャンスも、この国を発展させる希望もたくさんあります。インターネットを利用した通信販売やフリーマーケット、オークションなどのサービスが身近になり、買い物のかたも、商品を受け取る仕組みも、さらに便利なものも求められています。荷物を運ぶ仕事にかかわるすべての企業がお客さまのために対等な条件で競い合い、ともに高め合っていくことが、課題の多くは解決し、チャンスと希望を現実のものにすることができるとは思いません。

すべての国民のみなさんに、考えていただければと思います。この広告の内容について下記の特設ホームページでもくわしくご説明しています。みなさんのご意見もお寄せください。それでは、きょうもまた、配達に行つてきます。

